

「僕も結婚したい」障がい者の息子の言葉で 80代後半の夫婦が“生活保護申請を決意”

生活保護へのバッシングや誤解のなかで、生活保護の申請をためらう方が多くいらっしゃいます。そんな中、Aさん世帯では、障がいを持つ息子さんの障害年金と作業所での給与で、80歳代のAさん夫婦と息子さんの家族3人が生活していました。

作業所は、障害を持っていることなどが理由で、企業での一般就労が難しい方が就労するための職場です。A型作業所では最低賃金は保証されますが低賃金です。

ある時、息子さんがポツンと「僕も結婚したい」と語りました。両親は話し合い、ためらっていた“生活保護利用”を決意し、小倉

生健会に相談しました。

飲食業などで細々と生活してきた両親の老齢年金は極わずかしくなく、糖尿病や血圧の病院にも通えなくなり、手の指の神経が無くなっていました。歯医者にも全く行けていません。奥さんは骨折で入院し、医療費も払えなくなっていました。

生健会がもっともっと頑張っって“生活に困ったら誰でも生活保護を利用できるような社会にしていかなければ”と改めて決意しました。本会報をお読みの皆さんやその周りの方で、お困りの方は090-1361-0876(やつき)に電話をください。



「被保険者記録照会回答票」で、“消えた年金”を取り戻そう

安倍元首相の国葬騒ぎで「消えた年金」を思い出しました。安倍氏は「消えた年金」について「最後のお一人までお支払いする」と約束しましたが、第一次安倍内閣の時、約5,095万件の不明件数は、今も約2000万件が残っています。

2017年に年金受給資格が25年以上から10年以上になり、対象者が拡大されました。

5年前に年金の手続きに行ったBさんは加入期間が10年未満だから「資格がない」と言われていました。

先日、小倉生健会と一緒に年金事務所に「被保険者記録照会回答票」(無料)を求めたところ、10年を超える記録が確認でき、年金を受け取れることになりました。

会社名の変更や合併・倒産、グループ会社

被保険者記録照会回答票				
平成〇〇年〇〇月〇〇日現在の加入記録です。				
住所	〒△△県××市1-1-1		日本年金機構	
氏名	〇〇 〇〇		〇〇 年金事務所	
生年月日	昭和〇〇年〇〇月〇〇日		性別	〇〇
年金手帳記号番号	基礎年金番号		〇〇〇〇〇	
国民年金	厚生年金	船員保険		
制度	お勤め先の名称又は共済組合等	取得年月日	喪失年月日	月数
厚年	〇〇〇株式会社	昭和〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	〇
薄年	国民年金	平成〇〇年〇〇月〇〇日		〇

照会回答票の一部

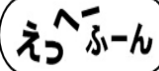
内での異動だけでなく、結婚による姓の変更、漢字は正しくても、フリガナの濁点、読み方の違いでも基礎年金番号に統合されていない可能性があります。

過去の記録を思い出し、身分証明を持って年金事務所で「被保険者記録照会回答票」を求めて下さい。あきらめていた年金を受け取れるかもしれません。

最近、年金事務所はすいています。



小倉生健会
生活と健康を守る
一人はみんなのために、みんなは一人のために



えっふん 大病院への外来受診抑制を強行する岸田政権 窓口負担増で受診控え・健康悪化の危険

筆者が通っている総合病院の医師から「次回から診療所に行ってください」と言われ「えっ」と思いました。

国は2016年から、500病床以上の大病院を利用し、紹介状がない患者には、1~3割の窓口負担とは別に、初診時5000円、再診時2500円の特別負担を徴収する制度を導入していました。

その後、500床以上から400床以上に対象が拡大され、10月からは「紹介受診重点医療機関」になった一般病床が200床以上の病院にまで拡大され、料金も初診の場合は7000円、再診の場合は3000円になります。

患者は“かかりつけ医”から紹介状を書いてもらう場合も、診察代以外に作成料が3割負担でも原則750円かかります。どちらにしても、患者は負担増を強いられます。

国のこんなやり方に、日本病院会の相澤会長

も「導入に強く反対する」との意見書を当時の安倍晋三首相に提出していました。

岸田政権は病院の統廃合や病床削減だけではなく、外来受診の制限にも熱心です。

しかも、その方法は窓口の負担増で患者の受診を抑制する手法です。

この口実につかわれているのが“全世代型社会保障”です。世代間の対立をあおり、国民を分断する手法です。

このような国民を脅し、分断する政治を変えて、安心して医療が受けられる社会をつくるために、小倉生健会も頑張ります。



市が突然強行 “生活保護利用者への、下水道基本使用料減免廃止” 生健会が「緊急陳情」署名608筆+団体署名18団体 提出

北九州市は、“行政改革”として、生活保護利用者への「下水道基本使用料の減免廃止」を決定したと市議会に報告しました。

新規に生活保護を利用するものは今年10月から。それまでに生活保護を開始したものは、“激変緩和”として2024年4月から廃止するとなりました。

これを報告する「環境・水道委員会」を前に8月17日、生健会は個人署名608筆、団体署名18団体の署名を添えて緊急に陳情しました。

議会で保護課は「国は生活保護利用者への生活扶助費(単身で月に約7.3万円)に下水道代は含まれており“2重払い”としている。有識者からも『2重払いなら廃止はやむを得ないが、激変緩和措置を』との声が多かった」と報告し

ました。

日本共産党の出口しげのぶ市議が「国の文書に“2重”との文字はないですよ」と質問すると保護課は「市が“2重”と判断している」と答えました。

“2重”という造語で“有識者”を誘導し、何としても制度を廃止しようと画策する保護課に怒りが沸きました。



上：請願提出
左：多くの署名を手渡す

市議会陳情(8/25)

「生活保護利用者にマイナンバーカードを強制するな！」 議員の追及に、保護課：「検討します」と答弁



左：執行部。右：議員に、口頭陳情する田中一郎 小倉生健会副会長（矢印）
※写真は「小倉タイムス」社から

おはようございます。

小倉生健会の田中一郎です。

生活保護利用者の受診に個人番号カードが義務付けられるかのような説明文書の是正を求める陳情について、口頭陳情を行います。

「マイナンバーカード交付申請のご案内」と題したチラシが、生活保護受給者に配布されました。議員の皆さんは、このチラシ内容をどのように理解しますか？

■申請しないと医療が受けられない

チラシには「生活保護を受給している方は、原則としてマイナンバーカードで、生活保護の指定医療機関を受診することになります。この制度は、令和5年度中から始まる予定です。マイナンバーカードをまだ申請していない方は、申請の手続きをお願いします」と書かれてありました。

国は「カードの申請は任意であって強制されるべきではない」と繰り返し表明しています。ところがチラシは、生活保護利用者はカードを申請しないと“医療が受けられないと誤解”させることを期待した意図的な内容になっています。

■利用者「見直せ」

チラシを受け取った生活保護利用者は、
○「これを読んだ人のほとんどがカードの申請をしないと医療を受けることができなくな

ると誤解する」。

○「『受診できます』と書かないが、『受診することになります』と書いている。『選べる』とは書いてない」。

○「保護課が『お願いします』と言えば、命令とか指示に聞こえる」。

○「このままだと、誤解して不本意だけどカードを申請する人が増える。すぐに訂正の文書を出すべきだ」などの当事者の声に、保護課も「検討します」と答えざるを得ませんでした。

■見直したチラシがひどすぎる

ところが、作り直した新しいチラシを見て目を疑いました。新しいチラシは、“誤解”を与える「原則としてマイナンバーカードで、生活保護の指定医療機関を受診することになります」などの文言は、そのまま、そのあとに新たに「これにより、医療券を持参する必要がなくな

り、マイナポータルで検診結果や薬の情報がみられるようになります。」との文言が挿入されただけでした。

保護課の対応のひどさに改めてあきれました。

しかも、経済的に最も弱い立場の生活保護利用者をその対象にしたことに腹が立ちます。議員の皆さん、どう思われますか。

■カード申請は“自由意思”。強制するな

本来、マイナンバーカードを作成するかどうかは、本人の自由な意思に基づくべきであり、外部から作成を強制されるべきものではありません。また「カード」をめぐっては様々な個人情報に紐づけされることから、個人情報の流出・漏洩の懸念もあり、申請率が停滞している実態があります。だからこそ、各自の自由な選択が重要なのです。

今回のチラシに関して、北九州市の保護課は「このチラシは、厚労省から見本が送られてきて、『このとおりのチラシを配布してほしい』

と頼まれたもので、我々はそのとおり作成して配布しただけ」と弁解しています。一方、厚労省の担当者は生健会の抗議に対して「一言一句このまま使えというものではない」「誤解があったとしたら申し訳ありません」「今後、検討したいと思います」と答えました。

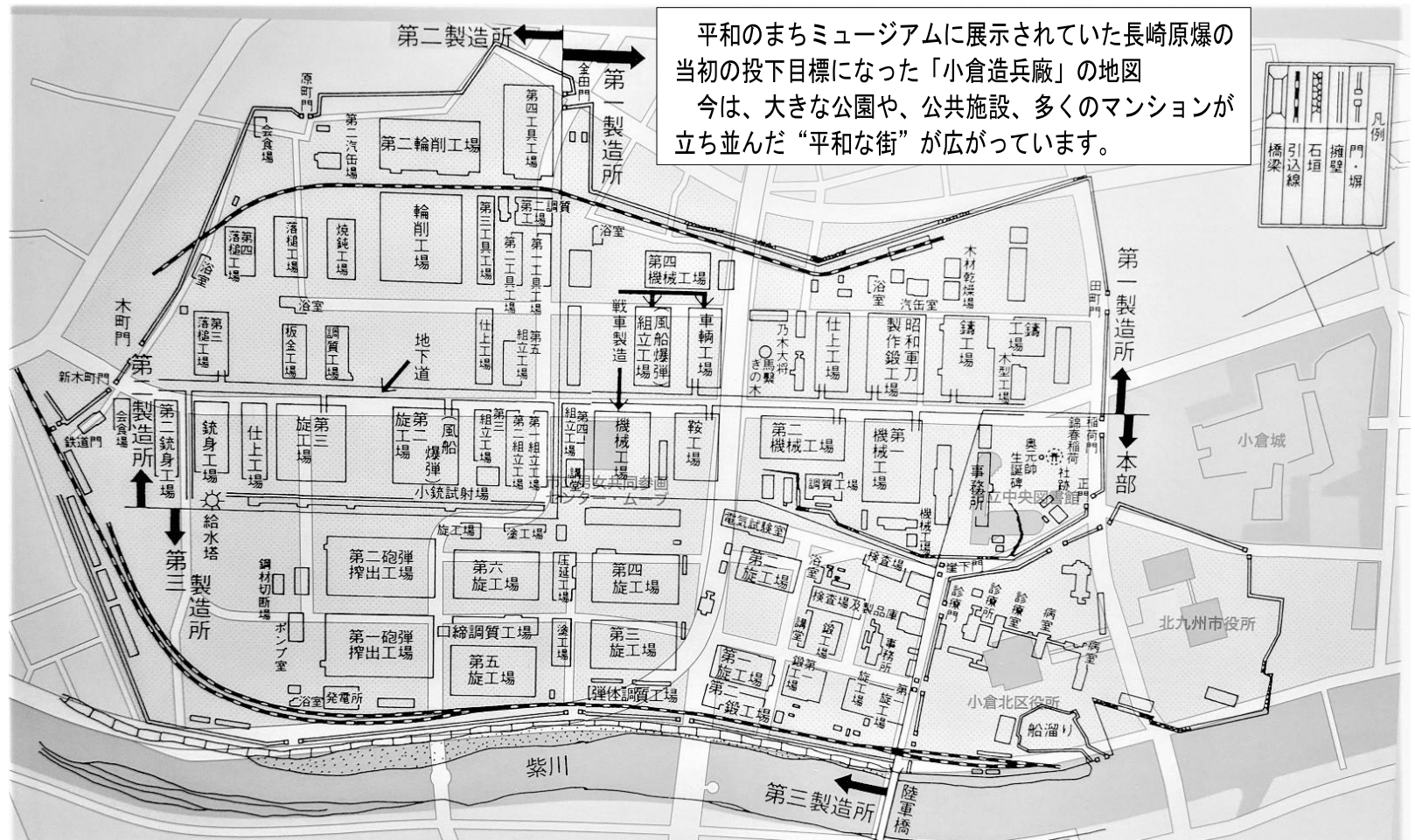
■“カード申請は任意”を周知せよ

生健会は、「誤解を生む文書を送った人に、訂正の文書を届けるべきだ」とお願いしていますが、保護課は拒み続けています。

カード申請は任意ですか強制ですか。任意なら任意と書いて徹底すべきです。

あらためて周知すべきです。よろしく願います。

市民に、無料開放されていた(8月まで) 「平和のまちミュージアム」に行ってきました



平和のまちミュージアムに展示されていた長崎原爆の当初の投下目標になった「小倉造兵廠」の地図
今は、大きな公園や、公共施設、多くのマンションが立ち並んだ“平和な街”が広がっています。